

赤ちゃんが泣いて困ったときに

——乳幼児揺さぶられ症候群の予防——

赤ちゃんの世話をするのは本来楽しいものですが、毎日続けていると
疲れることも少なくないですね。泣かれるともっと大変…。

赤ちゃんはなぜ泣くのでしょうか？

たとえば…



あなたのせいではありません

赤ちゃんが泣き続けたときには、まず抱きしめてあげましょう。
でも、どうしてもつらくなったときは

- ①安全な場所に赤ちゃんを寝かせて少し離れてみましょう。
- ②深呼吸してみましょう。
- ③誰かに話を聞いてもらいましょう。



原因がわからないときは、
かかりつけの先生に相談するのもいいですね。

絶対にやってはいけません。NO!

大声を出したり、叩いたり、強く揺さぶったりしてはいけません。
自制心を一瞬でも失うことが、**取り返しのつかない結果**をまねきます。



失明、聴力障害、頭蓋内出血、運動麻痺、脳障害などの
後遺症のほか、死亡することがあります。

乳幼児 揺さぶられ症候群とは

空中に投げたり、腕や足をつかんで振ったりするなど、
だれが見ても危ないと感じるほど、
激しく頭を揺さぶる行為によって起こる症状です。

脳が激しく揺さぶられると赤ちゃんは大きなダメージを受けます。

生後6か月までは特に危険です。

赤ちゃんをあやすときに、
リズムカルに軽く揺さぶってあげたり、
首が座っている赤ちゃんに「たかい、たかい」をやさしくすると、
赤ちゃんは声を上げて喜びます。
このようなあやし方では絶対に頭蓋内出血は起こりません。
大丈夫です。



赤ちゃんは必ず自然に泣き止みます。

でも赤ちゃんが泣いて困ったときには、
あなたのそんな気持ちを話してみませんか？



ふくおか・こどもの虐待防止ホットライン

☎092-738-7404

(火・水・土10時～14時)

匿名で相談できます。

子育てがつらくなったとき、悲しいとき、不安なとき、
一人で抱え込まないで話してください。
専門研修を受けた相談員がお話をお聞きします。



ふくおか子どもの虐待防止センター (F・CAP-C)

協力団体 ああああ・ああああ・ああああ

このリーフレットは福岡県地域福祉財団の助成により作成しています